

澄みわたる青空と友好の笑顔に囲まれて ～中国リハビリテーション研究センター訪問交流～

自立支援局 就労移行支援課 就労相談室
理療指導専門職 堀 美貴子

訪問日：平成28年3月10日（木）

場所：北京市

◆こんな中心地に！？そして…青い！

東京から約4時間のフライトで北京空港へ降り立った。
中国リハビリテーション研究センター（以下、中国リハ）は、
そこからタクシーで1時間程の距離にある。中国の首都で、
政治や文化の中心にある北京市。その中でも天安門や天壇公園、
北京動物園などの観光地に囲まれ、地下鉄も網の目状に広がった
アクセスの良い市街地に中国リハはある。日本でいうと、東京
23区のだ真ん中にあるイメージだろうか。

昨今の中国といえば、PM2.5に代表される大気汚染の問題があり、
とりわけアレルギー体質の私はマスクや薬を握りしめて向かったが
現地は予想を大幅に裏切る、雲一つない澄みきった青空！

感激のあまり思わずカメラに収めた。



↑天壇公園

◆家族もチームの一員

中国リハでは、まず博愛病院の見学をさせていただいた。成人
だけでも一日100人以上の患者がPT・OTなどのリハビリ訓練を受
けているという。訓練室はベッドやテーブルなどが所狭しと並び、
大勢の人々でごった返す光景には圧倒された。

また印象的だったのは、患者の隣には必ずと言っていいほど家
族が寄り添っていたことである。患者を励ますように声をかけたり
一緒にリハビリをやってみたりと、それらは当たり前のように
自然に溶け込んでいた。患者にとって一番の良き理解者であろう
家族が、支援者の一人として身近に寄り添う姿は考えさせられる
ものがあつた。



↑中国リハ入口と博愛病院

◆大切なのは、いいとこ探し！

主に入院患者に対する相談支援や職業評価、職業訓練を行って
いる社会職業康复科（社会職業康复課）のソーシャルワーカーの
皆さんと交流した。

患者からの相談内容は福祉制度に関するものが多く、その都度
情報提供を行っているようだ。廊下に面した相談室の入口横にも
同制度を紹介するパネルが掲示されていた。

職業評価、アセスメント方法について意見交換し、手段の違いは
あったものの“本人の強みや力に着目して支援することが大切”
とのストレングスモデルの考え方は共通していることがわかり、
思わず両者で微笑んだ。



↑社会職業康复科（相談室）入口



↑職業訓練（造花づくり）の風景

◆職業訓練（造花づくり）を見学

いくつかある職業訓練のうち、訪問日は造花づくりを行っていた。ペンチなどを器用に使いながら、ワイヤーを丸めたり切ったりして一片の花びらに見立て、そこに色付きストッキングをかぶせて組み合わせるとカラフルな花が完成する。手先の細かな作業が可能な患者を対象に行っている訓練であった。ここでも家族と一緒に参加していたことはやはり印象的である。

この造花は、一本（花5つ付いて）25元（訪問日現在約500円）で売れるそうだ。特に肢体不自由者の場合、パソコン訓練も並行して受講し、在宅で自身のウェブショップ上で造花を販売して収入を得ることができるよう支援しているとのことであった。

この日の講師は一般の方で、他の職業訓練でも専門的な知識・技術を持つ講師をセンター外から招くことが多くあるという。ソーシャルワーカーは全体的なコーディネートや見守り、声掛けなどの役割を果たしているように感じた。

◆学んだこと

限られた時間で言葉の壁もあり、中国の福祉制度や中国リハの具体的な役割・業務などの理解は今後も勉強を続けたい。しかし、現場の風土は十分に感じる事ができたと思う。

中国リハでは、患者はもちろん職員同士もアットホームな雰囲気の中で、互いに声をかけ、楽しみながら仕事をしているように見えた。同僚というより家族のような温かさが伝わってきた。この雰囲気や姿勢、心の余裕はぜひ見習いたいと思っている。また中国で、同じ志で同じ専門職に携わる方々と出会えたことは励みとなりモチベーションも上がった。

家族のように迎えて下さった中国リハの皆さん、謝謝！



↑社会職業康复科のソーシャルワーカーの皆さんと